

2023年3月期 決算説明会

株式会社日本トリム
証券コード：6788（東証プライム）

2023年5月11日



当社の成長戦略

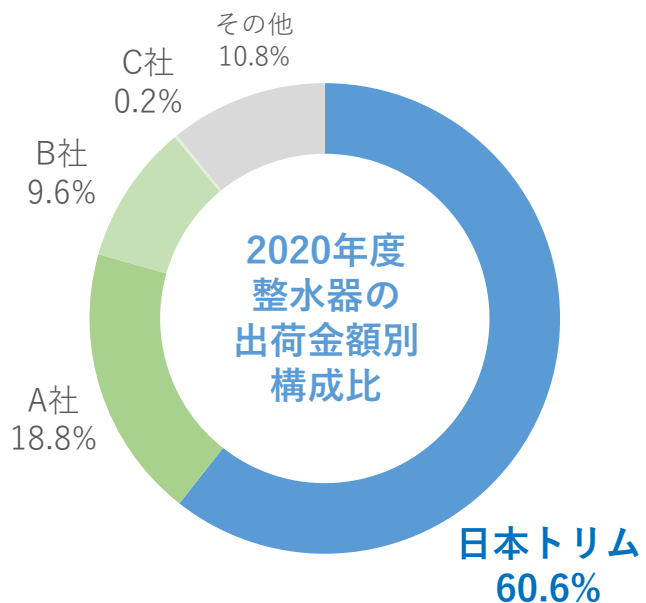
社会はいつでも我々の製品を必要としている

電解水素水の普及により、
グローバルに**予防医療**、
医療費削減へ**貢献**することが、
我々の使命



日本トリムは電解水素水の可能性を追求し、健康の維持・増進に貢献する企業

1 整水器における国内圧倒的トップシェア



出典：株式会社矢野経済研究所
「2021年版 浄水器・整水器市場の実態と展望」

2 電解水素水の可能性の拡大



3 電解水素水に関する共同研究を様々な機関と推進



新たな可能性を開拓

効果のエビデンスを蓄積

「強い製品」 「強い販売力」 のかけ合わせで盤石な顧客基盤を構築

強い製品

- 企画・開発・製造までの一貫体制
- **胃腸症状改善効果 認証**
家庭用管理医療機器[※]
- 電解水素水の効果に関する**豊富なエビデンス**

強い販売力

- **全国28拠点**の販売ネットワーク
- 約**200名**の専門知識を持った営業社員
- **多様な業種**の代理店

盤石な顧客基盤

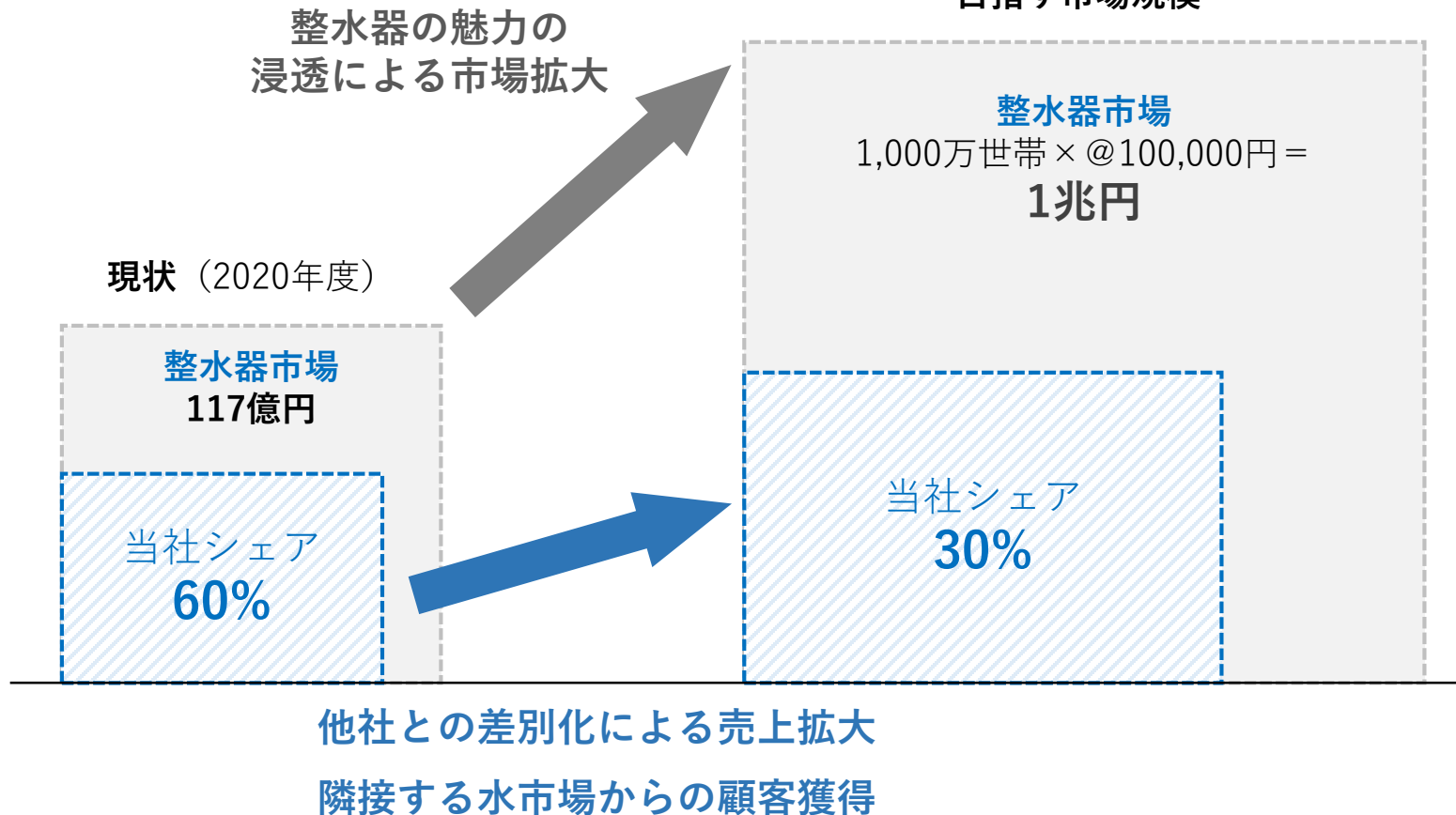
- 整水器導入世帯数約**85万世帯**
- カートリッジ販売継続率
全機種平均 **70%以上**
当社基幹機種 **90%以上**
(Trim Ion Refine)

※整水器は、飲用水を生成する器械（整水器、浄水器、ウォーターサーバーなど）の中で唯一、医療効果が認められた家庭用の管理医療機器です。

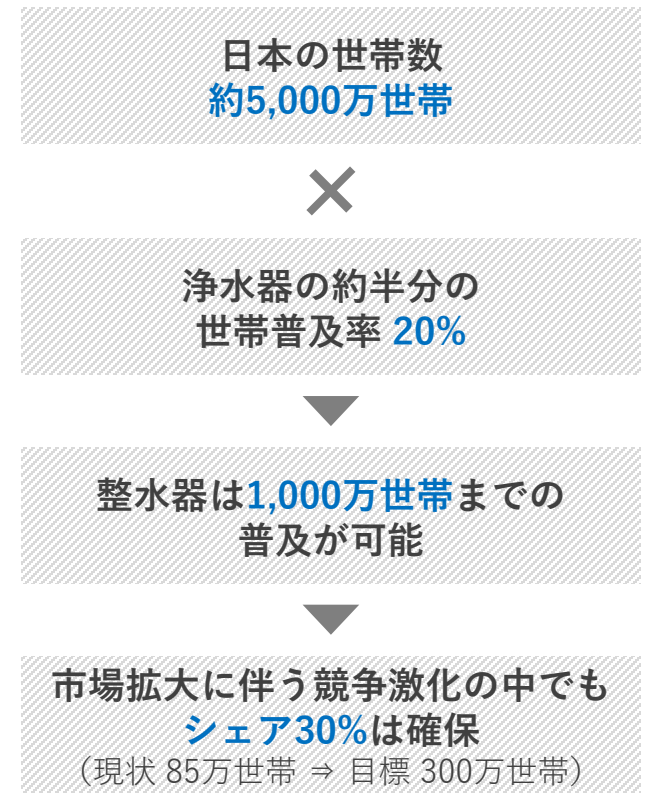
国内整水器市場における当社の戦略

整水器の圧倒的トップ企業として、市場拡大と売上拡大を狙う

目指す市場規模

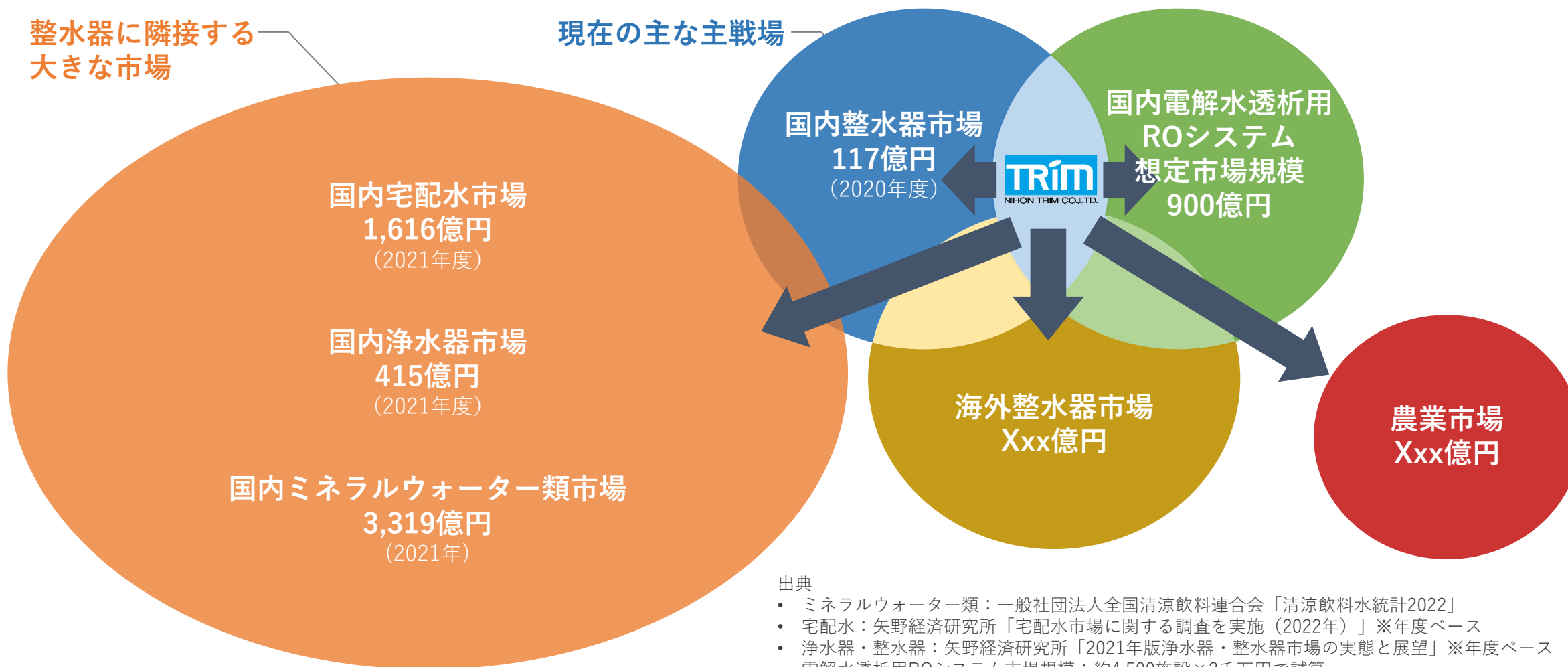


当社の整水器市場シェアの考え方



広がる電解水素水の大きな可能性

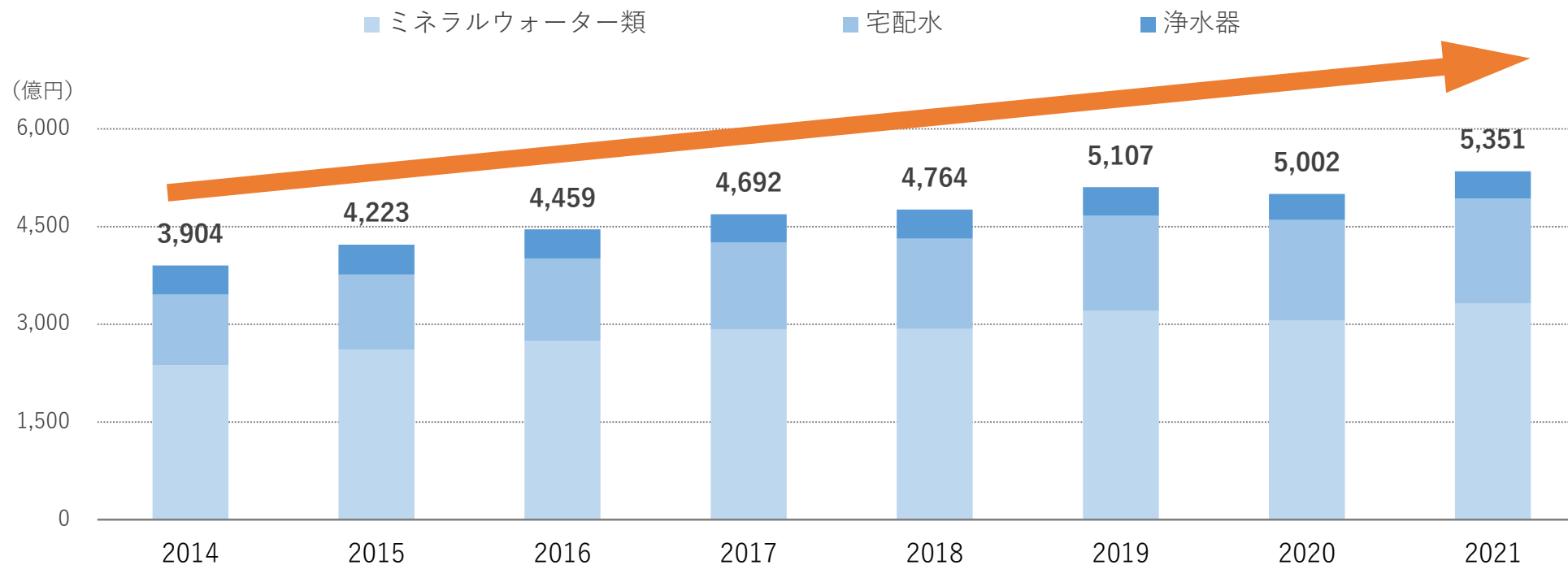
電解水素水には大きな可能性があり、周辺にある様々なニーズを取り込むことが可能



健康意識の高まりに伴って水にお金を使う消費者が増加

整水器の優位性の浸透を図ることで、整水器に顧客を誘導することが可能

整水器に隣接する水関連の市場規模



出典

- ミネラルウォーター類：一般社団法人全国清涼飲料連合会「清涼飲料水統計2022」
- 宅配水：矢野経済研究所「宅配水市場に関する調査を実施（2022年）」※年度ベース
- 浄水器・整水器：矢野経済研究所「2021年版浄水器・整水器市場の実態と展望」※年度ベース

電解水素水と他の水との比較

電解水素水は多くの項目で優位性があるため、他の市場からのシェア獲得が可能

	医療効果 胃腸症状の改善	水素	おいしさ	1ℓ 当たり コスト	環境負荷
水道水	×	×	△	0円	◎
浄水器	×	×	◎	1円～6円	○
ミネラルウォーター	×	×	◎	約100円	△
ウォーターサーバー	×	×	◎	約156円	△
整水器（電解水素水）	◎	◎	◎	約6円[※]	○

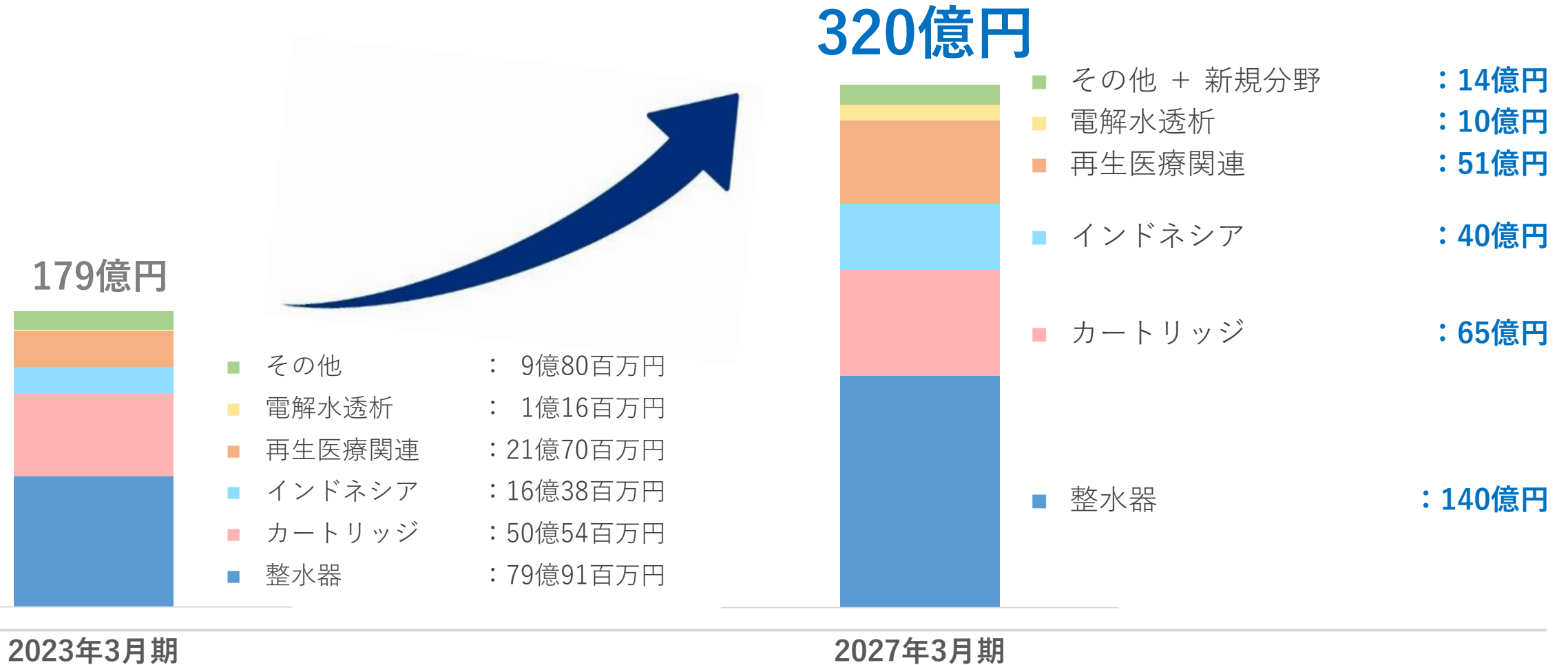
整水器は、ほぼすべての項目において優位

※ ・ 弊社の製品を5年使用した前提で試算。

・ 製品代金（Refine） & 4年分のカートリッジ交換費用、電気代、水道代を、5年分のカートリッジ処理能力で1ℓ当たりの金額を算出。

2027年3月期の売上高目標

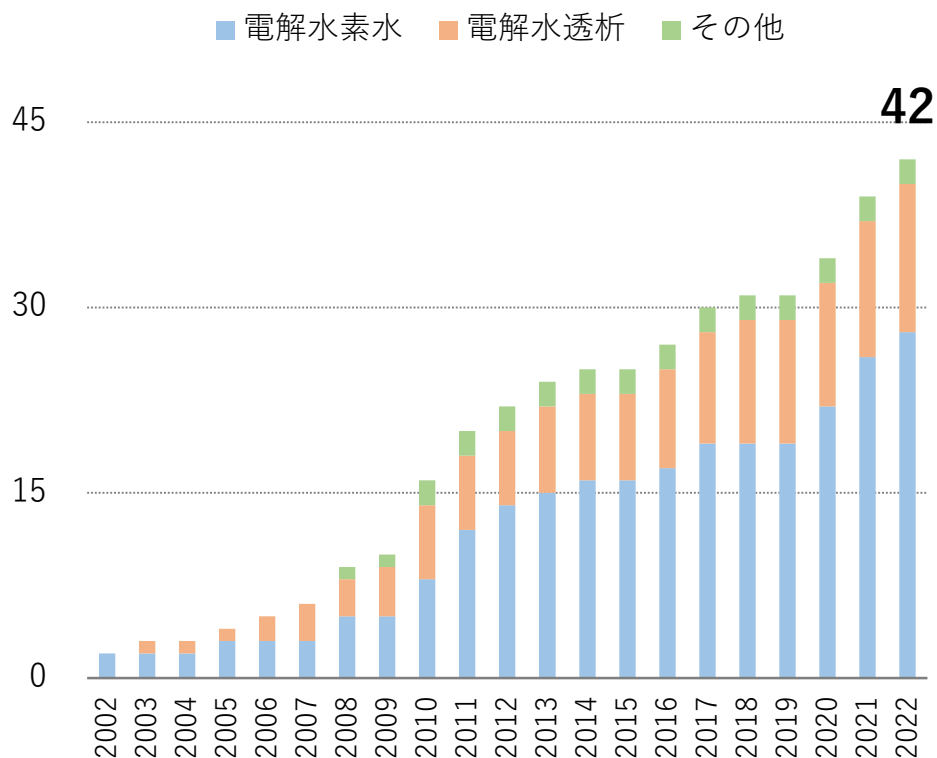
コロナの影響の長期化および人員の採用環境などを考慮し、売上高目標を見直し



具体的な施策① エビデンス強化

電解水素水の新たな可能性を開拓すべく、共同研究・地域連携でさまざまな研究を展開

電解水素水関連発表論文 累計数



当社と共同研究を行う主な大学・研究機関

理化学研究所

東京大学未来ビジョン
研究センター

立命館大学

東北大学

帯広畜産大学

九州大学

高知大学

神戸大学

2023年4月
当社と共同でエッセンシャルヘルスケア
科学に関する共同研究講座を新設

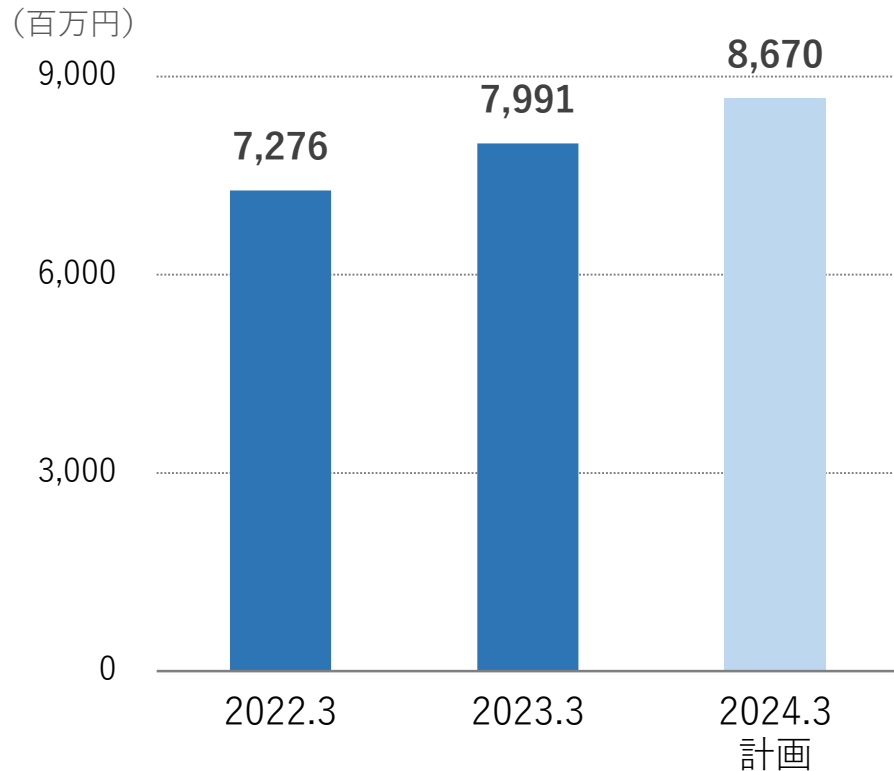
当社の発表論文の詳細は、下記をご参照ください。

https://www.nihon-trim.co.jp/research/thesis_water/



【目標】2027年3月期 整水器売上高 140億円

整水器売上高の推移

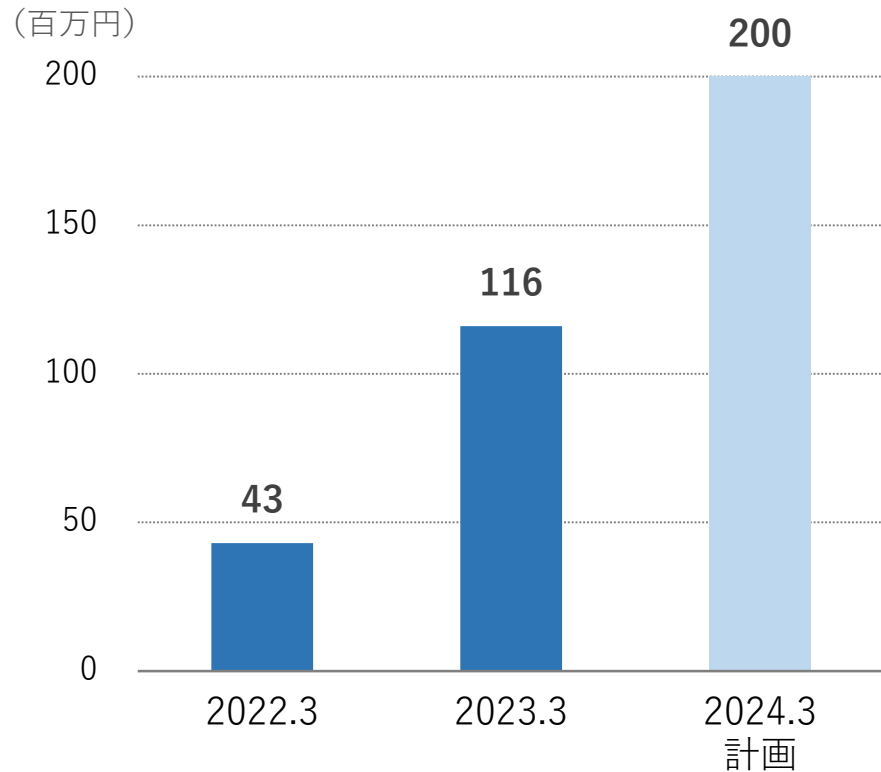


- セミナー取得対策
：職域販売セミナー数の確保がキーファクター
- 営業人員採用・育成を継続
- 卸・OEM取引の拡大(海外含む)
＝卸専用商品の開発、新規開拓
- WEB販売の拡大
＝オウンドメディアの拡充、WEB専用商品の開発
- 紹介販売の拡大
＝顧客満足度向上のためのお客様視点の施策
- 更なるエビデンスの取得
＝ブームでなくエビデンスベースの需要拡大

【目標】2027年3月期 電解水透析売上高 10億円



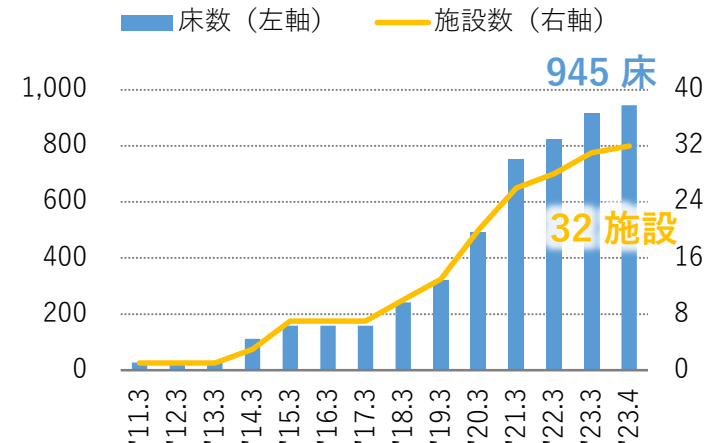
電解水透析事業売上高の推移



全国 4,493施設への展開

- ニプロ(株)との協働展開の開始
- 徳洲会グループへの導入を拡大
- 地域基幹病院での実績をベースに面の展開に
- 医療機器化を視野に、さらなるエビデンスの構築

電解水透析導入先数の推移 (累計)



2023年4月末時点

- 32施設
- 945床
- 患者数約2,800人

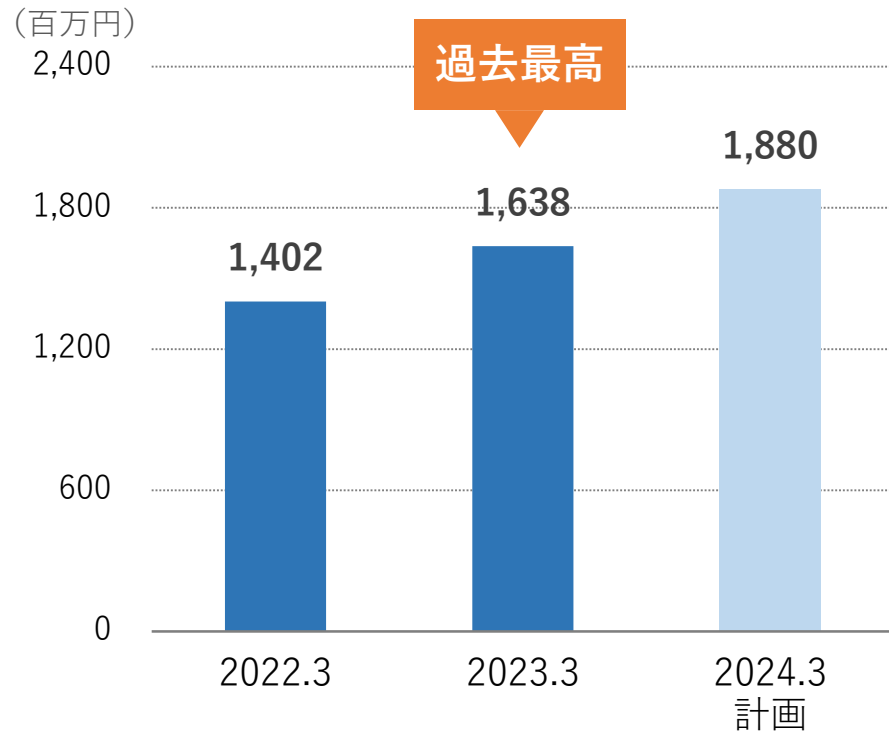
主な導入施設

- 聖路加国際病院 (45床)
- 亀田総合病院 (70床)
- さなるクリニック (153床)

【目標】2027年3月期 インドネシア売上高 40億円



インドネシア売上高の推移



※ 現地通貨ベース 前期比 109.8%

2030年度目標 1兆ルピア
(約90億円、1ルピア=0.009円)

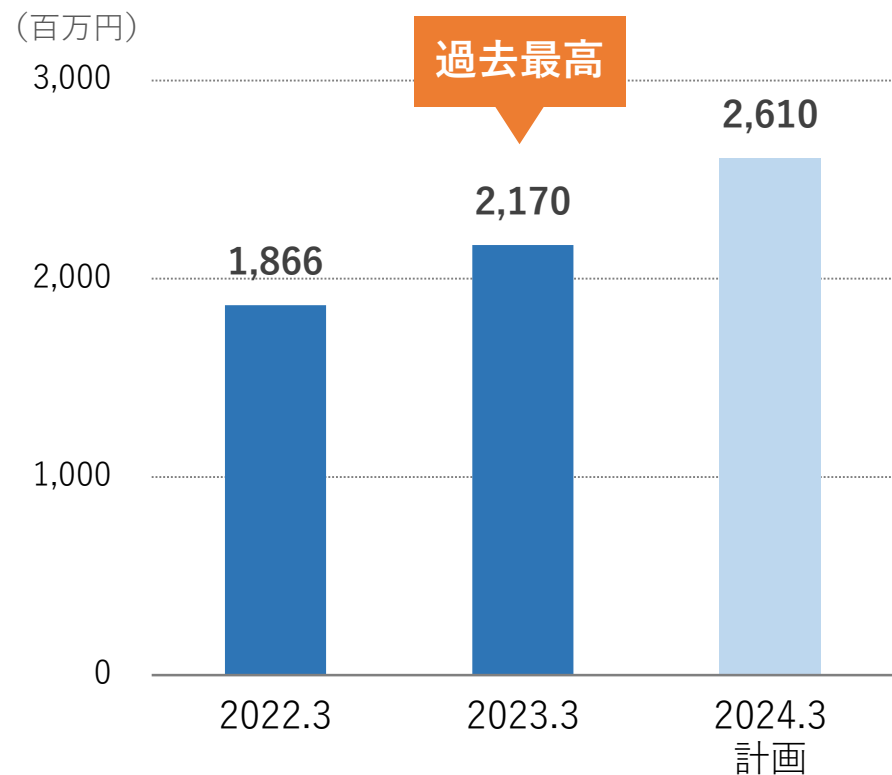
- TVCM展開等、マーケティングの強化
- 高級市場向けに、ガラスボトル・炭酸ボトルの展開
- ペットボトルのジャワ島外への展開地域拡大
- 品質管理体制、生産体制の強化

拡大する市場

- 人口 256百万人
- ボトルドウォーター市場 約 2,500億円 (2021年)
- アルカリ水ボトルのシェア 約 0.5%
- アルカリ水市場でのPristineのシェア 約78 %

【目標】2027年3月期 再生医療関連売上高 51億円

再生医療分野売上高の推移



2028年3月期 出生数に対する細胞保管率3%
(約2万検体、現在は約1%)

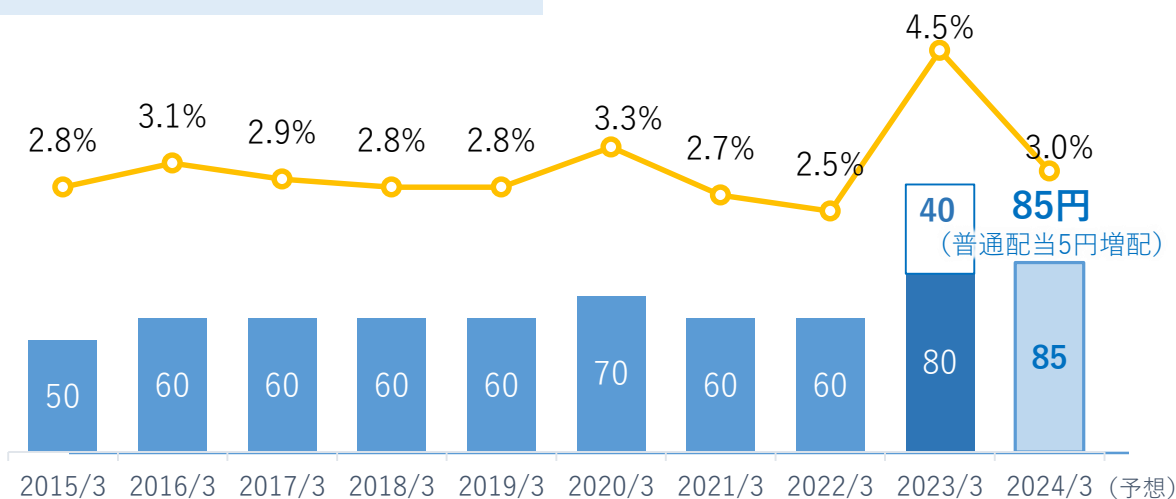
- 国内最大手 民間さい帯血バンク
新規保管数、国内シェア99%
- 脱コロナにより、リアルマーケティングが復活、
デジタルマーケティングとの相乗効果で業績拡大
- 様々な幹細胞のバンキング、またそれらを利用し
た新たなプロダクトやサービスの開発等の事業展開
- 強固な財務基盤をベースとし、関連するベンチャー
企業への投資やM&A

新 資本政策の基本方針

- 1 資本効率性の向上 目標指標：ROE 10%以上
- 2 株主還元の強化 基準：DOE 3%
- 3 財務健全性の維持

※ ROE（自己資本利益率） ※ DOE（株主資本配当率）= ROE × 配当性向

配当金額・DOEの推移



2024年3月期
期末配当予想

85円

40周年記念配当を
除いて5円増配

DOE **3.0%**

配当性向 **34.8%**

※ 会社予想ベース


株主優待制度

弊社商品 30%オフ

ROEの推移

2023年3月期
(実績)
8.1%

2024年3月期
(目標)
8.7%



2023年3月期の実績と 2024年3月期の業績予想

過去最高 売上高

17,951百万円

(前期比 10.3%増)

経常利益

2,515百万円

(前期比 20.2%増)

親会社株主に帰属する
当期純利益

1,646百万円

(前期比 15.2%減)

売上高過去最高、コロナ収束により回復から成長へ

- 整水器：主軸の職域販売は売上高3,959百万円（前期比15.0%増）
整水器メイン商品の Refine は2022年6月に実売価格を値上げ（その他の整水器は2023年3月に値上げ）。健康経営提案による整水器導入企業 1,531社、2,153台、スポーツ関連での展開も拡大。
第4四半期、コロナ禍が収束に向かい、セミナー数がコロナ禍前の水準近くに回復しつつある。
- 整水器浄水カートリッジ：2023年4月からの値上げを前に駆け込み需要もあり、売上高 5,054百万円（前期比5.3%増）
- インドネシア ボトルドウォーター事業：売上高 1,638百万円（前期比16.8%増）、過去最高を更新。
- 電解水透析：亀田総合病院や徳洲会グループの山内病院など 5 施設126床へ導入。売上高 116百万円（前期比170.8%増）
- ステムセル研究所：売上高 2,091百万円（前期比17.4%増）、過去最高を更新

2023年3月期 連結業績サマリー

単位：百万円 (百万円未満切捨)	2022年3月期実績		2023年3月期実績		増減額	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	16,276	100.0%	17,951	100.0%	1,674	10.3%
売上原価	5,027	30.9%	5,520	30.7%	492	9.8%
売上総利益	11,249	69.1%	12,431	69.3%	1,182	10.5%
販売費及び一般管理費	9,250	56.8%	10,053	56.0%	802	8.7%
営業利益	1,998	12.3%	2,378	13.2%	379	19.0%
経常利益	2,091	12.9%	2,515	14.0%	423	20.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,940	11.9%	1,646	9.2%	△294	△15.2%
一株当たり当期純利益 (円)	250.58	—	214.78	—	△35.80	△14.3%
設備投資	585	3.6%	387	2.2%	△197	△33.7%
減価償却費	427	2.6%	389	2.2%	△38	△9.0%
研究開発費	216	1.3%	204	1.1%	△12	△5.6%
自己資本比率 (%)	74.5%	—	72.4%	—	—	△2.1pts
ROE (%)	10.4%	—	8.1%	—	—	△2.3pts
DOE (株主資本配当率)	2.5	—	4.5%	—	—	2.0pts

売上高のポイント

- 過去最高を更新
- 整水器「Refine」の値上げが寄与
- インドネシア、ステムセル研究所などグループ事業が成長

売上総利益率の主な変動要因

- 整水器「Refine」の値上げ (+)
- インドネシア、ステムセル研究所などのグループ事業の構成比増 (△)
- 原材料価格の高騰 (△)

当期純利益が前期比減となった要因

- 2022.3期において、中国病院運営事業関連の債権譲渡及びステムセル研究所の株式売り出しにより税金費用が660百万円減少する特殊要因があったため

2023年3月期 セグメント別売上高

単位：百万円 (百万円未満切捨)		2022年3月期実績		2023年3月期実績		増減額	増減率
		金額	構成比	金額	構成比		
ウォーターヘルスケア	(フロービジネス)						
	DS事業部 (職域販売)	3,444	21.2%	3,959	22.1%	515	15.0%
	HS事業部 (取付・紹介販売)	1,465	9.0%	1,526	8.5%	60	4.1%
	SS事業部 (店頭催事販売)	462	2.8%	524	2.9%	61	13.3%
	卸・OEM部門	743	4.6%	851	4.7%	108	14.6%
	メンテナンス部門	283	1.7%	327	1.8%	44	15.8%
	リプレイス架電	400	2.5%	309	1.7%	△91	△22.7%
	WEB販売	476	2.9%	492	2.7%	16	3.4%
	整水器合計	7,276	44.7%	7,991	44.5%	715	9.8%
	(ストックビジネス)						
	カートリッジ	4,802	29.5%	5,054	28.2%	252	5.3%
	(子会社売上)						
	広州多寧健康科技有限公司	260	1.6%	185	1.0%	△75	△28.9%
	PT. Super Wahana Tehno	1,402	8.6%	1,638	9.1%	235	16.8%
(その他)	625	3.8%	795	4.4%	169	27.0%	
小計	14,367	88.3%	15,665	87.3%	1,297	9.0%	
医療関連	再生医療関連事業	1,866	11.5%	2,170	12.1%	303	16.3%
	電解水透析及びMGO測定	43	0.3%	116	0.6%	73	170.8%
	小計	1,909	11.7%	2,286	12.7%	377	19.8%
連結合計		16,276	100.0%	17,951	100.0%	1,674	10.3%

売上高

19,800百万円

(前期比 10.3%増)

経常利益

2,850百万円

(前期比 13.3%増)

親会社株主に帰属する
当期純利益

1,870百万円

(前期比 13.6%増)

2027年の中期目標の達成に向け、攻めの施策を展開

- 整水器売上高 8,670百万円（前期比8.5%増）を計画
- 職域販売5,000台、取付紹介販売1,700台の体制構築に向け、営業人員の採用を継続
- 人材紹介会社などを活用したセミナー数の拡大
- 5月、国内新規OEM大口取引がスタート。6月、キッチン関連メーカーでの取扱い開始予定。海外展開にも注力
- 浄水カートリッジを2023年4月より値上げし、収益貢献。売上高5,340百万円（前期比5.7%増）を計画
- インドネシア TVCM等、マーケティングに先行投資。売上高1,880百万円（前期比14.7%増）、過去最高更新を計画
- 電解水透析 徳洲会グループの施設へ導入予定、今後さらなる広がり。
- 再生医療関連事業 売上高2,610百万円（前期比20.3%増）、過去最高更新を計画

2024年3月期 連結業績予想

単位：百万円 (百万円未満切捨)	2023年3月期実績		2024年3月期予想		増減額	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	17,951	100.0%	19,800	100.0%	1,848	10.3%
売上原価	5,520	30.7%	6,100	30.8%	579	10.5%
売上総利益	12,431	69.3%	13,700	69.2%	1,268	10.2%
販売費及び一般管理費	10,053	56.0%	10,980	55.5%	926	9.2%
営業利益	2,378	13.2%	2,720	13.7%	341	14.4%
経常利益	2,515	14.0%	2,850	14.4%	334	13.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,646	9.2%	1,870	9.4%	223	13.6%
一株当たり当期純利益 (円)	214.78	—	243.96	—	29.18	13.6%
設備投資	387	2.2%	500	2.5%	112	28.9%
減価償却費	389	2.2%	400	2.0%	10	2.7%
研究開発費	204	1.1%	220	1.1%	15	7.5%

予想の前提

売上高のポイント

- 整水器、浄水カートリッジの値上げ
- インドネシアにおけるマーケティング強化

売上総利益率の主な変動要因

- 整水器、浄水カートリッジの値上げ (+)
- インドネシア、ステムセル研究所などのグループ事業の構成比増 (△)

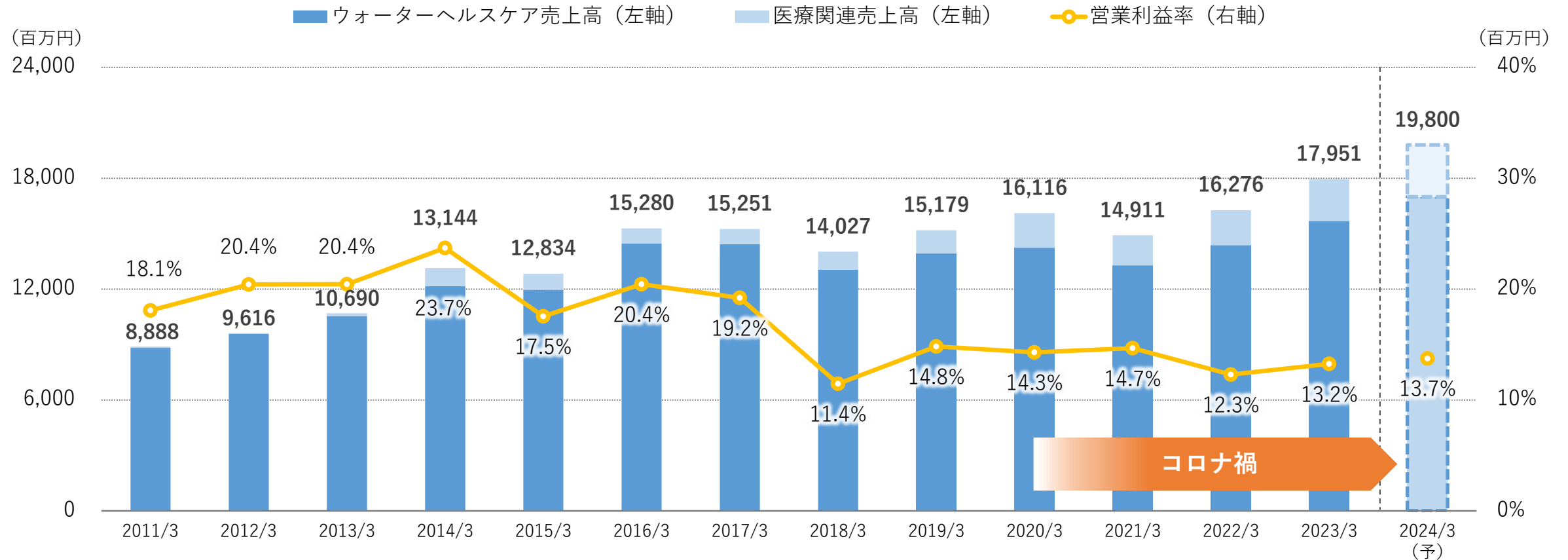
販売管理費の主な増加要因

- 人件費増 (昇給、J-ESOPの導入、人員増)
- 広告宣伝費 (インドネシアでのマーケティング費用など先行投資増)

2024年3月期 セグメント別売上高予想

単位：百万円 (百万円未満切捨)		2023年3月期実績		2024年3月期予想		増減額	増減率
		金額	構成比	金額	構成比		
ウォーターヘルスケア	(フロービジネス)						
	DS事業部 (職域販売)	3,959	22.1%	4,270	21.6%	310	7.8%
	HS事業部 (取付・紹介販売)	1,526	8.5%	1,640	8.3%	113	7.5%
	SS事業部 (店頭催事販売)	524	2.9%	560	2.8%	35	6.8%
	卸・OEM部門	851	4.7%	1,080	5.5%	228	26.8%
	メンテナンス部門	327	1.8%	340	1.7%	12	3.7%
	リプレイス架電	309	1.7%	340	1.7%	30	10.0%
	WEB販売	492	2.7%	440	2.2%	△52	△10.7%
	整水器合計	7,991	44.5%	8,670	43.8%	678	8.5%
	(ストックビジネス)						
	カートリッジ (子会社売上)	5,054	28.2%	5,340	27.0%	285	5.7%
	広州多寧健康科技有限公司	185	1.0%	210	1.1%	24	13.3%
	PT. Super Wahana Tehno	1,638	9.1%	1,880	9.5%	241	14.7%
(その他)	795	4.4%	890	4.5%	94	11.9%	
小計	15,665	87.3%	16,990	85.8%	1,324	8.5%	
医療関連	再生医療関連事業	2,170	12.1%	2,610	13.2%	439	20.3%
	電解水透析及びMGO測定	116	0.6%	200	1.0%	83	71.7%
	小計	2,286	12.7%	2,810	14.2%	523	22.9%
連結合計		17,951	100.0%	19,800	100.0%	1,848	10.3%

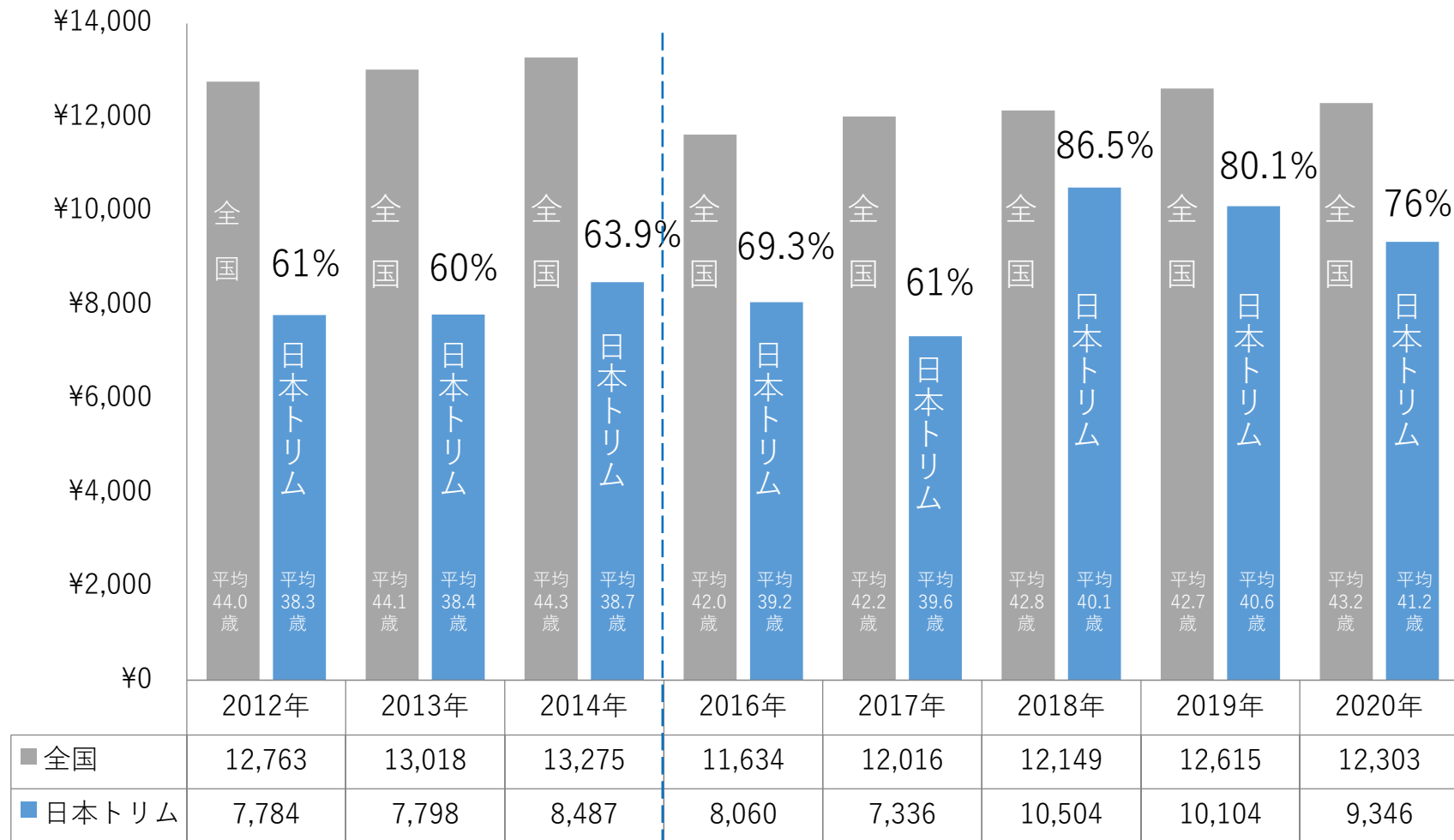
コロナ禍収束により、2024年3月期よりさらに成長路線へ。
原材料高騰も値上げにより利益率改善を見込む。



A grayscale photograph of a laboratory setting. In the foreground, a hand wearing a white glove holds a 100ml Erlenmeyer flask containing a clear liquid. To the right, a large glass beaker is pouring liquid into a test tube, which is filled with a white, foamy substance. In the background, other laboratory glassware like a graduated cylinder and a beaker are visible. A large white circle is overlaid on the center of the image, containing the word "Appendix" in blue text.

Appendix

一人当たり月額医療費平均



【注釈】

※ 医療費：医科(入院 + 入院外) + 歯科(入院 + 入院外) + 調剤

※ 全国平均は下記より抜粋

・ 2014年度/2013年度/2012年度：

全国健康保健協会

協会けんぽ「事業所健康度診断」

・ 2016年度/2017年度/2018年度/2019年度

「健保組合医療費の動向に関する調査

(基礎数値編)」

※ 2015年度は年度中に協会けんぽから健保連に移行したため、データなし

電解水素水の新たな可能性を開拓すべく、共同研究・地域連携でさまざまな研究を展開



大学・大学病院

研究機関



新たな可能性を開拓

効果のエビデンスを蓄積

直近に発表した論文

2022年

- 酸化ストレスへの有効性（理化学研究所）
- 炎症性腸疾患の症状を緩和（理化学研究所）
- 重度疲労感低減作用を確認（聖路加国際病院、日鋼記念病院）

2021年

- 重度の透析関連疲労感をほぼ消失（聖路加国際病院、愛仁会 井上病院、疲労科学研究所、理化学研究所）
- インスリン抵抗性高値を改善（東北大学）
- アルコールによる肝細胞傷害を軽減するメカニズムを解明（早稲田大学）

2020年

- 電解水素水飲用による抗ストレス効果（理化学研究所）
- 電解水素水の潜在的効果の根源（東京大学未来ビジョン研究センター）
- 持久運動のエネルギー消費量を有意に低減（立命館大学）

日本トリムグループのサステナビリティ

企業理念：「快適で健康なヒューマンライフの創造に貢献する。」

【マテリアリティ（重要課題）】



本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。